日本共産党名古屋市議団 市政ニュース
2023年2月7日
No.281
http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１
電話052(972)2071　FAX052(972)4190
発行・日本共産党名古屋市会議員団

新型コロナウイルス感染拡大
医療崩壊を防ぎ いのち最優先の対策を
日本共産党名古屋市議団 名古屋市に申し入れ

感染拡大の「第8波」による「医療崩壊」が深刻です。119番がなかなかつながらない事態が続き、救急搬送困難事案件数は、第7波のピーク274件（8月第2週）を超え、第8波に入り316件（1月第3週）と過去最悪となりました。

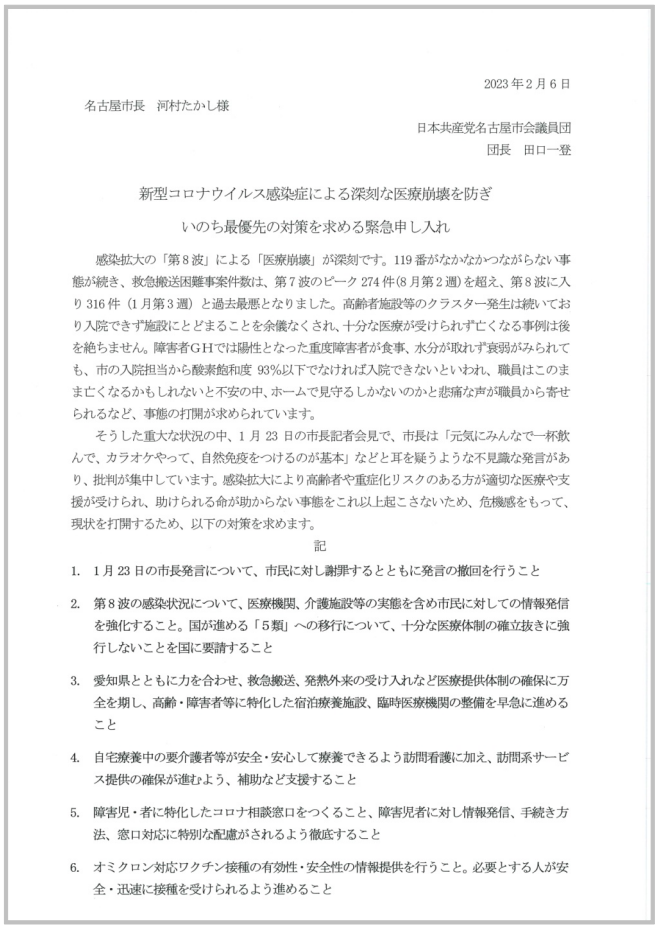
日本共産党名古屋市議団は、2月6日、河村たかし市長に新型コロナ感染拡大で医療崩壊を防ぎ、いのちを最優先にする対策を申し入れました。

救急医療機関への人件費支援を継続

名古屋市では、コロナ患者を受け入れる救急医療機関に、職員の人件費を1.5倍にする支援を行っています。2020年5月の補正予算以来継続しています。申し入れの懇談で平松健康福祉局長は「この支援を来年度も続けていくための予算をおねがいしている」と答えました。市議団は国が進める「5類」への移行について、十分な医療体制の確立抜きに強行しないことを国に要請するよう求めました。

「一杯飲んで自然免疫をつける」河村市長は謝罪と発言撤回を

河村市長は、1月23日の市長記者会見で、「元気にみんなで一杯飲んで、カラオケやって、自然免疫をつけるのが基本」と発言し、批判が集中しています。今回の申し入れで、「市民に対し謝罪するとともに発言の撤回を行うこと」を求めました。



2023年2月6日

名古屋市長　河村たかし様

日本共産党名古屋市会議員団
団長　田口一登

新型コロナウイルス感染症による深刻な医療崩壊を防ぎ
いのち最優先の対策を求める緊急申し入れ

感染拡大の「第8波」による「医療崩壊」が深刻です。119番がなかなかつながらない事態が続き、救急搬送困難事案件数は、第7波のピーク274件(8月第2週)を超え、第8波に入り316件（1月第3週）と過去最悪となりました。高齢者施設等のクラスター発生は続いており入院できず施設にとどまることを余儀なくされ、十分な医療が受けられず亡くなる事例は後を絶ちません。障害者GHでは陽性となった重度障害者が食事、水分が取れず衰弱がみられても、市の入院担当から酸素飽和度 93%以下でなければ入院できないといわれ、職員はこのまま亡くなるかもしれないと不安の中、ホームで見守るしかないのかと悲痛な声が職員から寄せられるなど、事態の打開が求められています。

そうした重大な状況の中、1月23日の市長記者会見で、市長は「元気にみんなで一杯飲んで、カラオケやって、自然免疫をつけるのが基本」などと耳を疑うような不見識な発言があり、批判が集中しています。感染拡大により高齢者や重症化リスクのある方が適切な医療や支援が受けられ、助けられる命が助からない事態をこれ以上起こさないため、危機感をもって、現状を打開するため、以下の対策を求めます。

記

1. 1月23日の市長発言について、市民に対し謝罪するとともに発言の撤回を行うこと
2. 第8波の感染状況について、医療機関、介護施設等の実態を含め市民に対しての情報発信を強化すること。国が進める「5類」への移行について、十分な医療体制の確立抜きに強行しないことを国に要請すること
3. 愛知県とともに力を合わせ、救急搬送、発熱外来の受け入れなど医療提供体制の確保に万全を期し、高齢・障害者等に特化した宿泊療養施設、臨時医療機関の整備を早急に進めること
4. 自宅療養中の要介護者等が安全・安心して療養できるよう訪問看護に加え、訪問系サービス提供の確保が進むよう、補助など支援すること
5. 障害児・者に特化したコロナ相談窓口をつくること、障害児者に対し情報発信、手続き方法、窓口対応に特別な配慮がされるよう徹底すること
6. オミクロン対応ワクチン接種の有効性・安全性の情報提供を行うこと。必要とする人が安全・迅速に接種を受けられるよう進めること